

部会名	環境安全部会	会議名	第8回会議		
日付	2月16日(金)	場所	鶴嶺東コミセンC会議室	記入者	高橋 里幸

<主な内容>

1 書記の選任について

高橋を書記に選任することとした。

2 ごみの不適正排出啓発チラシについて

年度当初に計画していた啓発用チラシの第2号を鶴嶺東地区まちぢから協議会のお金を使えることとなり、年度内に1万部を印刷・発行することができ、3月にそれぞれの自治会で各戸配布する。

3 1年間の振り返りほかについて

3月に予定されていた部会会議については、コミセンの開所20周年記念事業の都合により中止となり、今回が今年度最後の会議となるため、1年間の振り返りを行った。主な意見は次のとおり。

- ・ 去年は鶴嶺小学校の通学路の改善のため、鶴嶺八幡宮前交差点の交通状況の実態調査を行い、歩行者の信号の時間を3秒延長でき、歩行者だまりに残る児童を残さずに横断できるようになった。
- ・ 今年のごみの分け出しをわかりやすくした啓発チラシを発行できた。
- ・ 部会として、計画し具体的に動いて、前半で交通状況の実態調査、後半で啓発用チラシの発行と実績を残せたのは初めてであった。
- ・ 環境事業センター職員とごみの分別等について意見交換できたのは有意義であった。
- ・ 部会に関わる前まではごみの不適正排出や不法投棄について知る機会がなかった。わからないことだらけであったが、それぞれの自治会が抱える課題などがわかった。
- ・ 電池の出し方をはじめ、まだ課題が多い。自治会員以外の協力が必要である。
- ・ 啓発チラシは、効果の広がりを見たい。不適正排出をゼロにするのは難しく、いかに少なくするか。
- ・ 個別収集が解決策になり得るが、市民アンケートの結果からも個別収集はお金がかかるという理由で個別収集をという状況にはなっていない。
- ・ ごみの問題は地道に継続して啓発しながらやっていくことが必要である。
- ・ この部会のごみがメインではあるが、有害鳥獣などの環境問題も違った視点で取り組めたらよい。
- ・ 環境指導員を20年以上やってきたが、分別がスタートした頃から比べると、かなり改善されてきてはいるが、まだ課題が多い。

4 次期への引継事項について

次期においても、シリーズで啓発チラシを発行することを踏まえて、積み残しとなっている事項やごみの分け出しでわかりにくい事項の精査を行う。また、環境という視点でハクビシンなどの有害鳥獣の問題も検討事項とする。

- ・ 電池については、分別に困っているという実態があり、充電式（ニッカド・リチウム）をはじめ、海外製のリサイクルマークがないもの、ボタン電池とコイン電池の違いなど、分別するそれぞれの電池の線引きが難しく、簡単ではない部分があり、チラシで表現するのも難しさがある。
- ・ 引き続き、環境事業センターと話し合いながら、啓発チラシへの掲載を検討することとする。

- ・市が収集、処理できないものについても、市が仲介役としてどこまで関われるかも含めて啓発チラシへの掲載を検討する。

出席者 6名：高橋（円蔵）・中村（浜之郷）・伊藤（浜之郷）・茨城（サニータウン）・岡（アイランド）・内藤（浜之郷婦人会）

<次回の予定・内容>

- ・3月15日（金）に予定されていた部会はコミセンの都合により中止